

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2025年 第32週（8月4日～8月10日）

今週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

定点把握感染症

「新型コロナウイルス感染症 7週連続で増加」

第32週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,948例であり、前週比17.6%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.14、2.26、2.10、0.95、0.83である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比17%減の580例で、南河内4.38、三島4.35、中河内3.84、豊能3.59、北河内3.36であった。

伝染性紅斑は6%減の419例で、中河内4.53、南河内3.06、泉州2.85である。

ヘルパンギーナは25%減の388例で、南河内3.69、大阪市北部3.31、泉州3.15であった。

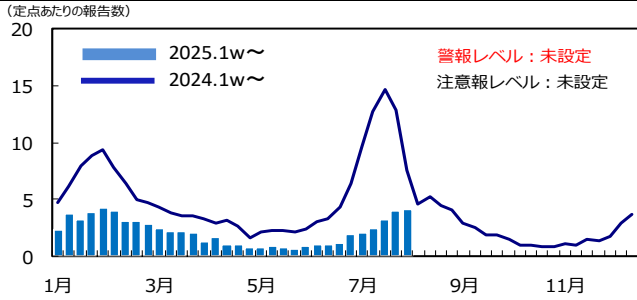
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は22%減の175例で、南河内1.50、中河内1.47、堺市1.41である。

RSウイルス感染症は7%減の153例で、大阪市北部1.54、大阪市東部1.25、南河内1.19であった。5ブロックで定点あたり報告数1を超えていた。

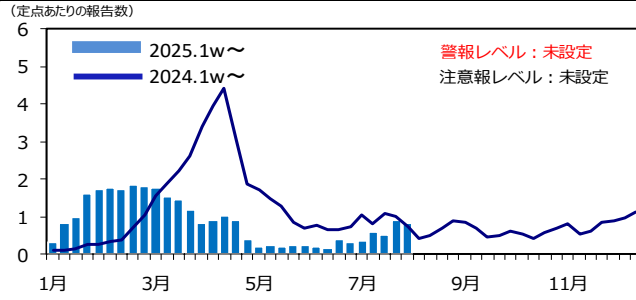
新型コロナウイルス感染症は3%増の1,212例、定点あたり報告数は4.16で、7週連続で増加がみられている。北河内5.22、堺市5.00、大阪市南部4.54、泉州4.36、豊能4.11であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は8%減の9,677例、定点あたり報告数は33.25である。南河内49.08、中河内41.76、堺市40.24、北河内35.22、泉州34.33であった。

新型コロナウイルス感染症



RSウイルス感染症



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第32週8月4日～8月10日）

第32週の順位	第31週の順位	感染症	2025年第32週の定点あたり報告数	前週比増減	2024年第32週の定点あたり報告数	2025年第32週の年齢別患者発生数最大割合
1	1	感染性胃腸炎	3.14	17%減	2.51	1歳_18%
2	3	伝染性紅斑	2.26	6%減	0.04	4歳_17%
3	2	ヘルパンギーナ	2.10	25%減	0.77	1歳_30%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.95	22%減	1.55	5歳_18%
5	5	RSウイルス感染症	0.83	7%減	0.71	1歳_44%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	4.16	3%増	7.61	80歳以上_13%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	33.25	8%減	-	1-4歳_41%

※2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)サーベイランスが開始となりました。

[詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症患者の発生状況について\(大阪府\)』の情報をご覧ください。](#)

[詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症\(大阪府感染症情報センター\)』の情報をご覧ください。](#)

第32週のコメント

～麻しん～ ワクチンで予防可能な感染症です。

全数把握感染症	
麻しん	
<p>麻しん（はしか）は麻しんウイルスによって引き起こされる発熱を伴う発しん性疾患で、感染すると高熱と結膜炎などの症状と、全身性の発しんが出現する。潜伏期間は1-2週間である。強い感染力（一人の患者が12～18人に感染伝播）のため、麻しん発生時には早期の診断と感染拡大に対する措置が重要となる。2015年3月、日本は麻しん排除国に認定されている。しかし、現在でもアジア、アフリカやヨーロッパ諸国で麻しんが流行している。症状（発熱、せき、鼻水、眼球結膜の充血、発しん等）があり、1）1か月以内に麻しん患者と接触していた場合、2）麻しん流行国（主にアジア及びアフリカ諸国）に最近の旅行歴がある場合、麻しんを疑い、感染拡大を防止するため、医療機関を早期に受診する。受診に際し、医療機関に事前連絡し、麻しん疑いを伝え、指示に従うことが重要である。麻しんはワクチン（1歳以上で2回）で予防可能な感染症であり、接種の徹底が予防や感染拡大の防止に重要である。</p> <p>麻しん「国立健康危機管理研究機構（旧 国立感染症研究所）」 麻しん情報（大阪府感染症情報センター）</p>	<div style="text-align: center;"> <h3>年別累積報告数（大阪府）</h3> </div>

表2. 大阪府全数報告数（2025年 第32週8月4日～8月10日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3		1					1	1	87
5類感染症	アメーバ赤痢	1					1				24
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1								67
	侵襲性肺炎球菌感染症	2				1				1	234
	梅毒	15	1			1			1	12	1,071
	百日咳	68	12	8	8	9	4	5	5	17	2,439
	麻しん	1								1	16
結核 (2025年6月分)	結核 新登録患者数：72名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 19名) (府内累積報告数 556名、内 肺・喀痰塗抹陽性 187名)										

(2025年8月12日 集計分)